

## 弧釣山～畔ヶ丸・甲相国境尾根大汗かき山行

山行日：2016.8.6 参加者：単独 天候：晴れ 記：TH

コース：橋本/6:20－三ヶ木バス乗換－月夜野バス乗換－御正橋バス停/8:25－スカイバレー  
キャンプ場/9:00－前ノ山/10:25－弧釣山/11:25－城ヶ尾峠/13:15－モロクボ沢ノ  
頭/14:45－畔ヶ丸/15:10－西丹沢自然教室前バス停/17:00（17:05 出発）



橋本駅から  
唯一道志に  
入れる土曜日

殆どが  
焼山方面で  
下車、月夜野  
終点へは



単独行者2名と“道の駅、関係者らしきサラリーマン計名のみだった。全員富士急バスに  
乗換した。バス料金は御正橋までで合計1950円也、いつまで定期バスが維持できるのか



御正橋バス停は御正体山への登山口があるが、この季節全く展望がないこの山へ登る  
ものづきなハイカーはいない。

しかし反対側の国境尾根へ登る変わったハイカーが現実に居る。  
唐松林が綺麗だと言われている前ノ山への取付き点、スカイバレーキャンプ場はボーイス  
カウトが良く使うようだった。林道終点から登山口に注意して沢沿いに踏み跡を追って行  
くが、途中で全く踏み跡が見当たらなくなった。キャンプ場経営者はあまりこの山へ一般  
ハイカーの侵入は歓迎していないらしく、道標らしきものは稜線に出るまで全くなし。  
コンパスを合わせ、急な斜面を両手両足を使って頂点を目指して行く。こんなはずで  
無かったのだが・・・

90分の頑張りで  
展望がない前ノ山  
山頂三角点に着く。  
正規の登山ルート  
外だったので  
唐松林は見られず





国境尾根に合流したが前ノ山分岐の道標はなし



畔ヶ丸方向へコンパスを合わせ、しばらく行くとピークが、ニセ狐釣山。



このピークからが西丹沢の最深部エリアである大拇、椿丸へのバリエーションルート

すこし降りると、狐釣避難小屋  
明るく開けた平坦地にあり、室内もきれいに  
維持  
されて  
いた



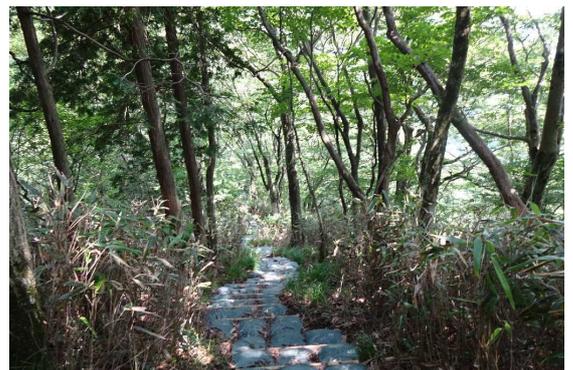
混雑  
時は  
土間に  
寝る



東海自然歩道ルートだけあり道標は豊富にある



小さなピークを生き度もアップダウンを  
繰り返し  
徐々に  
足に  
効いて  
くる  
ことに





賑やかな表丹沢と違い

静かな尾根歩きが国境尾根の特徴

ぼんやり歩いていると、タヌキの

親子3匹?が、双方で呆然と見つめ

合っていたが、写真を撮らないと・・・

焦ってしまい後ろ姿がピンボケ

となってしまった



以前大山山頂直下の金毘羅尾根でイノシシの親子に遭遇したことがあるが。単独行は静かに歩くので稀にこのようなことがある。

正面奥は世附権現山、左は畔ヶ丸からの尾根にある屏風岩山、そして中央平坦地が間もなく通過する城尾ヶ峠から、信玄平～地蔵平(小学校もあつた集落跡地)へのバリルート





珍しく山頂が開けた城ヶ尾山  
今日は氷水 1.5L、スポーツ飲料 1L を  
持ってきたが既に 1.5L を飲み干した



稜線が樹木の木陰歩きであり大分助かっているが

それでも熱く汗がズボンまで流れ落ちている



浦安峠は  
鳥ノ胸山  
～道の駅  
道志への  
バリルート



ようやく大室山からの稜線分岐モロクボ沢ノ頭に合流。既に暑さの影響で予定より  
1時間の遅れが生じている。1時間毎にあるバスダイヤ、慌てることもないのだが



畔ヶ丸に着けば、何とか2時間でバスへ行ける

ゆっくりあまり休みすぎず、その無人の畔ヶ丸山頂で寂しく一人撮影



時刻は 15:10

この調子では何とか2時間後の17時5分発の  
バスに乗れそうかなと、乗れなければ2時間後  
の最終バスかと

思い腰を上げる。シャツは汗で絞れるほどの  
状態で恰好は既にどうでもよくなる



西丹沢自然教室から国境尾根縦走時には最後の水補強箇所となる善六ノタワ近くの水場、水滴が滴り落ちているのみだった



これだからあてにできない



バス停への西沢沿いの道のりが今回ほど遠いと感じたことはなかった



コース中に平坦な箇所、奥の白い看板のところが箒沢権現山への登山道。しかし今は進入禁止。箒沢権現から畔ヶ丸山頂へのバルルートである



週末を迎えたキャンプ場には色とりどりのテントが開いている。息子夫婦も近くのキャンプ場に来ているのだが時間的に逢えずに・・・最後の鉄橋の先にバスが見える既に乗車しているではないか発車5分前によくたどり着く。汗を掻きすぎバテバテの山行だったのだが、この苦しさはしばらくすると時期に忘れてしまう。